



「名村テクニカルレビュー」 第22号発刊に際して

執行役員 坂田 貴史

環境規制や様々な要因により、当社グループの中核事業である新造船のマーケット低迷が長引いている状況の中、平成10年の創刊以来、毎年発刊を継続している『名村テクニカルレビュー』も今回で第22号となりました。

今年は、新しい時代の幕開けとなる記念すべき令和元年。当社でも新しい取り組みとして新造船事業における技術開発力の更なる強化を目指し、設計本部に『技術開発センター』を新設しました。

佐世保重工業株式会社や函館どつく株式会社を含めた我々名村グループは、船舶を中心に橋梁や鋼構造物を製造する製造業者であり、国内外を相手に競争するメーカーとして、常に「技術力の向上」を目指した取り組みを継続する必要があります。

新設しました『技術開発センター』が正にその役割を担っており、また毎年継続して発刊している『名村テクニカルレビュー』も当社グループの技術力向上を支えていると考えています。

製造業における重要な三本柱としてQCDと呼ばれるものがあります。

Quality : 品質、Cost : コスト、Delivery : 納期の頭文字を取ったもので、QCDの全てが揃ってこそその製造業であり、QCDを如何に高めるかが「技術力」です。

本誌には、当社グループの技術の結晶である製品の紹介、製品の開発を支える技術の紹介、そして各部門（設計・製造・工事）を支える技術と設備の紹介を掲載しており、其々の技術こそが、高性能で適切な品質（Quality）の製品を、コスト（Cost）を抑えて納期（Delivery）を守ってお客様に提供するために必要な技術であり、今後も技術力の向上による高いレベルのQCDを目指す事が、昨今の厳しい状況下で製造業として勝ち残る術だと考えています。

まずは当社の船舶海洋事業部 設計本部に新設した『技術開発センター』ですが、将来的には船舶の設計に留まらず製造や橋梁等を含めた名村グループ全体の『技術開発センター』に成長するものと信じています。

最後になりますが、本誌を読まれた多くの方々から忌憚のないご意見を頂ければ、次号発刊への励みになりますので、宜しくお願い致します。